

時事新報

第十三百二十四號

明治十九年七月十日

(辛未)

土曜日

月

入午後一時四十分

午前二十六分

晴

午後二時三十分

西暦一千八百八十六年

日本本人に關する左の一項を掲載したれば茲に譲載す
近來北米合衆國より於て鐵道の事業大に進歩したるが爲め隨て労働者の新需用を感ずるに至りたる次第は大

日本政府及其人民の注意を惹くに足るものあり現にモ

ソトリー・サンルイス・オビスボー・サンタバーバラ、

ウエントウラ、ロース・アンダルス等の地方に於ては

ソレアートよりの新線路落成したるが爲め數百萬エー

クルの美田と得るより又之と同時にサスター、シスキ

オン地方をカリフォルニア及オレゴン線路の竣工に由て

其地ふ産する木材と他方に運送するの便を得たり然る

にかくの如く土地物産の開くるふ隨ひ茲に一の困難と

いふは労役者の不足ある一事なり之が不足を供給する

支那人の勤勞こそ適當のものあるも何故か米國人は

とくに支那人を忌み嫌ひ之を逐斥するに至り今日本

人が之に代りての需用を充そべきや否やは日本人の

宜しく熟慮をべき所あり今日の處にくは米國人の毫も

日本人を忌嫌むれば偏頗心を失ひ雖も逐々渡航者の數

多くあり一ヶ月又千人も二千人も渡航することあらば

恐くは亦支那人と同様忌み嫌はるに至るあらんか然

れども日本人へ支那人の如く執拗あらずして能く俗と

輿に推進するの性質と有志米國の衣服を着け米國の食物

と食し日常生活の事亦皆米國風に従ふに客かあらざ

れば固より支那人と日と同うして語るべからず且つ日

本人は勉強、正直、節儉、陰削の好評判なり果して然ら

んにはこの新聞の土地に取ての珍客と云ふべきあり近

年日本人の布陸に移住せしむれば外に

忍かず亦支那人と同様忌み嫌はるに至るあらんか然

れども日本人へ支那人の如く執拗あらずして能く俗と

日本を忌嫌むれば偏頗心を失ひ雖も逐々渡航者の數

多くあり一ヶ月又千人も二千人も渡航することあらば

恐くは亦支那人と同様忌み嫌はるに至るあらんか然

れども日本人へ支那人の如く執拗あらずして能く俗と

日本を忌嫌むれば偏頗心を失ひ雖も逐々渡航者の數

多くあり一ヶ月又千人も二千人も渡航することあらば